



# 立志の丘

第30号  
R4.10.14  
西目中学校  
文責：高野

## 後期課程、第3期（～1/15）開始となりました！

後期スタートの10月11日（火）から後期課程と第3期（10/11～1/15）がスタートしました。1時間目に始業式と期の集いを行い、その後、各学級において学級組織づくりと第3期の学級会が行われました。1年の後半である後期は、もう半年（6ヶ月）ありそうですが、土日、祝日、長期休みを除いた登校日は、「3年生が93日」、「1，2年生が98日」しかないのです！今の教室で、今のクラスメイトと一緒に学び、一緒に語り合う日が100日未満であることを心に留め置いて、1日1日



を大事に過ごしていきましょう。始業式後に行われた「3期の集い」では、1A石\*\*\*さん、1B佐\*\*\*\*さん、2A小\*\*\*さん、2B佐\*\*\*\*さん、3A朝\*\*\*さんが、後期や3期にかける思いや自分の好きなことなどについて、聞き手の心を驚掴みにする素晴らしい発表をしてくれました。朝\*\*\*さんは、先日行われた「わたしの主張2022秋田県大会」で見事「優秀賞」に輝いた主張「『個性』として」を全校に披露してくれました（裏面掲載）。

また、生徒会三役が就任のあいさつをするとともに、3期の生徒会テーマである『充実』活動を吟味して活性化させよう」について、この目標に向かって全校で頑張っていくことを確認しました。13日（木）には後期・3期の専門委員会と全校委員会が開催され、新しい役員の下で、前期の活動の引き継ぎ確認と3期の目標設定が行われました。後期はすべて2年生がリーダーとなりますので、これまでの良き伝統を受け継ぎながら新しいことにもチャレンジして、どんどん学校を動かして楽しい学校をつくってください。3年生のアシストも宜しくお願いします。

## 秋の市教育委員訪問がありました

10月12日（水）に、今年度2回目の「市教育委員訪問」がありました。由利本荘市教育委員会秋\*\*\*教育長、佐\*\*\*職務代理者、小\*\*\*教育委員、高\*\*\*教育委員、相\*\*\*学校教育課長、佐\*\*\*指導主事に、全校の授業を参観していただき、その後ご指導をいただきました（提示授業は、1A国語、1B外国語、2A・2B体育、3A数学、3B社会）。教育委員の皆様から、「地域でのSDGsの取組と学校の取組がマッチし大きな効果を上げている。今後も継続してほしい。」「表現する場をもっと多くしても良いのでは」などそれぞれの委員の方々から具体的なご指導をいただきましたので、後期も良い点は継続し、改善すべきところは、全職員で対応して参りたいと思います。



表現する場をもっと多くしても良いのでは」などそれぞれの委員の方々から具体的なご指導をいただきましたので、後期も良い点は継続し、改善すべきところは、全職員で対応して参りたいと思います。



## 「わたしの主張県大会優秀賞受賞作品」朝\*\*\*さん



### 「個性」として

私は吃音をもっています。皆さんは、吃音の原因が何か分かりますか？昔から「愛情不足」「本人が緊張しすぎている」など人為的要因と言われてきました。今も医学的な要因は分かっていませんが、三つの捉え方ができるそうです。一つ目は吃音症という「病気」、二つ目は言語性の「発達障害」、三つめは「個性」。私自身はまだ、吃音を「個性」として受け入れることができていません。ですが、私が理想とするのは、吃音を「個性」として受け入れられる社会です。

私が吃音を「個性」として受け入れられない理由は大きく二つあります。一つ目は、吃音により、自分自身が苦勞するからです。音読をしているとき、発表するとき、友達と話しているとき。吃音はどこでも出てきます。そうすると、時間がかかったり、言いたいことが伝わらなかったりして、ストレスを感じます。大勢の前で話すことも本来好きですが、吃音によりだんだん避けるようになりました。もう一つの理由は、周りの目です。幼稚園の頃から笑われることは何回もありました。それが仕方のないこともわかっています。話し方が違うので、違和感を覚えるのは無理もないと思います。それでも知らない人から笑われたり、変な顔をされたりすると、傷つきます。

しかし、それ以上に十年近く一緒にいる同級生から笑われると傷つくし、「自分の話し方が悪いのかな」という不安に襲われます。また、複数人に「音\*って吃音なんですよ？」と笑いながら言われたこともありました。「うん。」と言ってしまえばいいのですが、その表情を見て嫌な緊張を覚え、心臓がやけにうるさかったことを覚えています。今でもそのときのことは私の心の傷になっています。これが、私が吃音を受け入れられない一番大きな理由です。無意識のうちに「吃音は悪いこと」と思ってしまうのかもしれない。

一方で、私を支えてくれる人達もいます。今、私はもう一度人前に立ってみようと思い、生徒会長に立候補し、当選してその役を務めています。入学式で、私は在校生代表で歓迎の言葉を述べました。その日の放課後の生徒会活動のとき、みんなが上手だったと言ってくれてとてもうれしかったです。また、「人前で話す度にうまくなっている」と言ってくれた人もいて、とても自信ができました。話す役目を代わってくれる人もいて、とても助けられています。私の親友は以前、「吃音をもっていることがおかしいのではなく、それを笑うことの方がおかしい。」と励ましてくれたことがあります。この言葉は私の励みになっています。その友達には何回も相談したり、発表の原稿を聞いてもらったりして、とても感謝している存在です。そして、私の学年にはもう一人、吃音の人がいます。悩みを共有することもあり、分かり合えることが多いです。昨年度の生徒会の先輩にも、吃音をもっている人も活躍していた人がいて「自分だけじゃない」と思えることの安心感は、とても大きいものがありました。吃音をもっていると嫌なこともあります、私を認めて、支えてくれる人もいます。

このように、応援してくれる人や支えてくれる人が多い社会は、人との違いを受け入れられる社会だと思います。西目中学校で取り組んでいるSDGsの10番、「人や国の不平等をなくそう」を実現する社会です。私のように吃音をもつ全ての人が「個性」として受け入れられること。吃音以外でも他の人との「違い」に悩む人が「個性」として受け入れられること、そして他者との違いを引け目に感じず、堂々と顔を上げて多様な人が活躍できる社会を実現していくことが、私の願いです。そのために私は、自分の「個性」も、相手の「個性」も受け入れ、大切に生きていきます。

